

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 伊集の木会 複合施設 新川の杜 放課後等デイサービス いじゅの木あらかわ		
○保護者評価実施期間	令和7年 5月 9日		～ 令和7年 5月 26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 28日		～ 令和7年 5月 2日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	卒業後を見据えた支援の一環として、「就労移行支援事業所」「就労継続支援B型事業所」「生活介護事業所」等の法人内事業所との連携を行っています。 また、グループホームや高齢者デイと合同で行事を行い、多様な経験の促進、交流を図っています。	・就業の体験等を行い、放デイ卒業後の進路選択に向け、意識付けや情報提供を行っています。 ・日常的な環境以外で他者との交流を持ち、促進することでコミュニケーション能力の向上や、様々な体験から「自己肯定感」や「自己効力感」の向上に繋がるようサポートを行っています。	・法人内事業所だけに限らず、他の放デイや就労に関する事業所や、地域の事業所と連携、交流を促進していきます。 ・他事業所との交流を持つことで卒業後の進路選択、決定に向けた支援や、地域移行に向けた支援を深めていけるよう努めます。
2	職員間の密な情報共有を行い、連携した「チーム支援」を行っています。 各児童の特性、「個別支援計画」の内容、支援方針、課題等を共有し、全職員が共通理解を持ち、支援を行っています。	・同じ時間帯で勤務する、常勤職員5名体制での運営を行っております。 ・日々行う申し送り、ミーティング時に各児童の様子、当日の活動に対する支援内容の確認、共有を行っています。 ・方向性を合わせ、連携、連動した「チーム支援」が行えるように組織作り、環境作りを行っています。	・夏休み等 児童の支援時間が長く、職員全体で情報共有する時間が確保しにくい場合は、ローテーションで情報共有の機会を持つ等、工夫を行っています。 ・外部の研修に加え、事業所内研修、学習会の機会を設け、共通理解の下、支援に当たるスキルアップを図ります。
3	送迎時の引継ぎや連絡帳のやり取り等、保護者さま、ご家族との情報共有を重視し、ご家庭と方向性を合わせた支援ができるよう努めています。 学校、相談支援専門員等、関係機関との情報共有を積極に行い、方針を合わせた支援が行えるよう努めています。	・保護者さま、ご家族との信頼関係の構築を深め、また事業所で行っている支援内容がわかりやすく伝わるよう努めています。 ・相談支援専門員や学校に積極的に働きかけ、担当者会議や個別の情報共有の機会を持ち、方向性を合わせた支援が行えるようにしています。	・勤務状況等により、直接会って情報共有を行うことが難しい保護者さまとは「LINE」やSMS等を活用し、情報共有を行っています。 ・モニタリング等の面談時を活用し、支援内容等の情報共有に努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・自事業所以外の児童と接する機会が少ない。	・児童館を訪問し、活動を行う機会はあるが、個々の児童の特性(慣れない場所が苦手、集団が苦手など)もあり、地域の児童との交流は難しい状況となっている。	・個々の児童の特性に配慮し、地域の児童と交流を持つことに抵抗が少ない児童 数名から地域交流を促進する等、工夫を検討してまいります。
2	・支援プログラムの内容や、事故防止等の各種マニュアルの内容が保護者へ浸透していない。 内容が十分に理解されていない状況がある。	・会う機会が少なく、情報共有の時間が不足している保護者さまに対し、一部情報が浸透していない状況となっている。保護者さまの状況に応じて、情報共有、周知の方法を工夫する必要がある。	・モニタリング面談時などの時間を活用し、支援プログラム、各種マニュアルの整備状況についてもご案内し、情報の周知、認知度アップを図っています。 ・支援プログラムの内容についても、面談時等を活用し、保護者さまへの周知を強化し、各家庭と連携した支援が行えるよう努めてまいります。
3			